

鹿児島大学病院広報誌

だより

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部

15号
2009.10

《目次》 副院長インタビュー

【診療科・部門紹介】

- 》小児科
- 》心臓血管外科

●病院再開発 新中央診療棟完成 新中央診療棟での抱負

- 医科外来ご案内図
- 錦江湾魚ごよみ
- 交通案内

理念

鹿児島大学病院は、21世紀に輝くヒューマン・トータルケア病院の構築を目指し、医療人の育成及び医学・歯学の研究の充実と発展に貢献すると共に、常に患者さん本位の原点に立った、質の高い医療を提供します。

基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、安心して安全な納得のいく治療心がけをします。
2. 質の高い医療、先進的医療の充実を図り、地域の中核的医療機関として貢献します。
3. 教育・研修病院として、地域の医療機関との連携を図り、人間性豊かな使命感にあふれる医療人を育成します。
4. 診療を通じてわが国の医学・歯学の研究を推進し、医学・歯学及び医療の国際貢献を目指します。
5. 安全で効率の高い病院運営体制を確立します。

患者さんの権利と責務

〈患者さんの権利〉

1. 誰でも良質な医療を公平に受ける権利があります。
2. 人の尊厳は、医療行為のあらゆる場面において尊重されます。
3. 医学的な状態、診断、処置その他の個人情報保護されます。
4. 治療・検査の方法、薬の内容等について十分な情報と説明を受け、理解した後、同意・拒否を選択する権利があります。
5. 診療録等に記録された自己の診療内容について、本院の規則により、情報の提供を受ける権利があります。

〈患者さんの責務〉

1. 医療従事者が最善かつ適切な診療を行うために、自身の健康状態に関する情報をできるだけ正確に伝える責務があります。
2. すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするために、院内の医療の妨げとならないように協力する責務があります。



副病院長インタビュー

IT支援で安心・安全な医療をサポートしていきます

鹿児島大学病院

熊本 一郎 副病院長(医科担当)

——副病院長として力を入れていることについてお聞かせください。

副病院長 1984年に鹿大病院へコンピューターを導入してから四半世紀、「情報の共有化」を目標に医療情報分野に携わってきました。2006年から本格稼働した「電子カルテシステム」では、診療録をコンピューターに入力します。手術時や検査時にもデータが直接コンピューターに表示されるため、間違いもありませんし、医療行為に専念できます。電子カルテでは職種ごとに画面を分けず、すべての職種で同一の画面を見ることになっているため、思い込みや思い違い、見落としを防ぐことができます。すべての職種の情報が同じ画面に表示される、と聞くと見にくいのではないかと思われるかもしれませんが、情報の表示の検索をかけ、重要度別や記入者別といった具合に必要な情報だけを表示させる機能もあります。また、カルテがコンピューター化したことで、複数の人々が同一のカルテを同時に、あるいは自分の都合の良い時間帯に別々の場所で見られるというメリットもあります。

輸血のシステムや手術時のシステムにバーコードを応用して、血液型や患者誤認を防止するシステムもできました。コンピューターを過信するだけはいけませんが、最終段階でコンピューターが入ることにより、安心・安全な医療に近づけると考えています。

——IT化は鹿大病院を劇的に変えましたが、IT化によって鹿大病院と地域の関係に変化はありましたか？

副病院長 離島やへき地が多いという特徴を持つ鹿児島県の地域医療連携においても、鹿大病院の情報技術が役に立つと考えています。現在、「遠隔診断システム」が地域医療を結ぶものとして活用されています。例えば、下甕島の診療所のCTやレントゲンの結果を伝送して共有し、救急ヘリを呼ぶかどうかなどを判断する遠隔診断が実際に行われています。また、地域の医療機関と連携し、患者さんのレントゲンフィルムやカルテの情報をweb上で共有することもできます。もちろん、これらにはプライバシーやセキュリティに配慮した工夫が必要でありなされています。

遠隔診断システムは、学生や研修医の教育にも役立っています。医学部の学生が実習先の離島の病院で遠隔診断システムを体験したり、研修医がカンファレンスの録画を空き時間に見て、大学にいるときと同じ環境で勉強ができるようにもなりました。

——今後、力を入れていきたい分野がありましたらお聞かせください。最後に患者さん、地域へのメッセージをお願いいたします。

副病院長 これからは院内のみならず、地域医療連携や患者さんへの情報提供にもシステムで貢献できればと考えています。

ITはさらに進化してきていますので、医療に最適な医療情報システムを目指し、今後もシステムバージョンアップを行い、医療従事者のみならず、患者さんにとって安心して安全な医療を実現するよう工夫を重ねていきます。

病院 再開発

現在の建物は築後30年以上が経過しているため、病院内施設の充実、患者さんの療養環境改善を目的に、平成19年度から10年間で建物の増築・改修を行います。期間中、ご不便をおかけするかもしれませんが、ご協力をお願いします。

新中央診療棟が完成しました

新中央診療棟竣工に伴い、平成21年7月27日に記念式典が行われ、関係者約100名が出席しました。

はじめに高松英夫病院長が挨拶で「新中央診療棟の完成を機にさらに地域の中核医療機関としての役割を果たしていきたい」と抱負を述べたあと、吉田浩己学長と伊藤祐一郎鹿児島県知事(岡積常治副知事代読)から祝辞が述べられ、吉中平次病院再開発推進室長より、建物の概要について説明がありました。また、「中央診療棟新営その他工事施工協力会」の関係者の方々から本院に対し車椅子等のご寄贈をいただきましたので、病院長から感謝状が授与されました。式典終了後、新中央診療棟に移動し、テープカットが行われ、新しくなった手術室等のお披露目があり盛況のうちに終了しました。

新中央診療棟は、鉄筋コンクリート造5階建(建築面積2,371平方メートル、延床面積8,174平方メートル)の免震構造となっており、手術部、集中治療部、検査部と医療器材管理部が配置されています。



新中央診療棟



テープカットの様子

新中央診療棟での抱負～集中治療部～

集中治療部は2009年10月より、新ICU病棟へ移転しました。旧ICUはベッド数が8床と少なく、入室希望に対して断らざるを得ないことがたびたびありました。一方、新ICUはベッド数が15床となり、術後症例だけでなく、重篤な内科疾患や救急など、多くの重症な患者さんを受け入れることが可能になります。新ICUのコンセプトは、プライバシーの重視です。旧ICUでは、面会者は他の患者さんを横目で見ながらICU内を移動していましたが、新ICUではすべて個室のため、面会者は廊下から直接個々の部屋に入ることができます。また隣室のアラーム音も全く気になりません。新ICUは、患者さんの環境やプライバシー問題を十分考慮して設計されています。また、医療スタッフは面会入口とは逆の側から、患者さんを常に観察できるようにしてあり、管理に問題のない構造になっています。ICUは中央診療部門であり、すべての診療科が垣根を越えて協力しながら重症患者管理を行っていくところです。高齢化社会では重症患者管理は必須です。特に若い医師は、ICUで重症患者管理学を学んで下さい。患者管理に関して相談に来られるのも大いに歓迎いたします。



ICUスタッフステーション



ICU個室(奥の扉が面会者用)

3次医療専門病院の小児科として

小児科

鹿児島大学病院小児科は、難治性の病気を持つ患者さんを対象に診療しておりますので、外来診療は風邪症状や腹痛や嘔吐下痢などの一般の患者さんには受診を遠慮していただき、神経、内分泌、血液・腫瘍、アレルギー、循環器、リウマチ膠原病、および腎臓の各専門外来として行っています。

このような病院を3次医療専門病院と呼び、1次医療を担当する小児科クリニック(開業の先生)、2次医療を担当する市立病院や医師会病院の小児科と連携し、少ない小児科医が効率的に子どもたちのために働けるように工夫をしております。病気になったときにはまずはクリニックで相談し、紹介されて市立病院や医師会病院へ、さらに必要なら当院へという順序を経て来ていただくなくては鹿児島県の小児医療は機能しません。

当院小児科病棟では、造血細胞移植術(骨髄移植、さいたい血移植など)をはじめ、心臓のカテーテル検査、膠原病の生物製剤による治療などを中心に行っておりますが、今年の冬は新型インフルエンザで心筋炎や脳症になった子どもを引き受けて治療するための準備を進めております。これらは多くの人手を要して採算にあわない治療、つまり他の病院では対応できない病気ですので、一般の患者さんには多少のご不便をおかけすることもあると思いますが、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

<初診受付>月~金(8:30~11:00)

※予約制・初診時に紹介状必要

TEL 099-275-5787

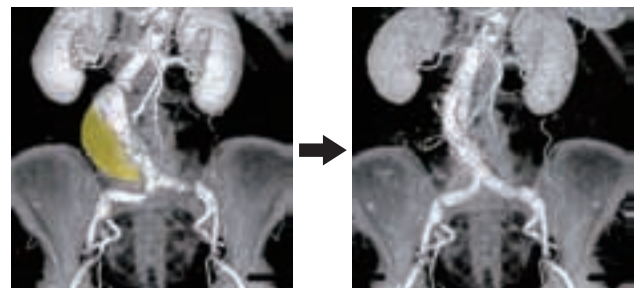
傷が小さく体の負担が少ない
ステントグラフト治療

胸部ならびに腹部大動脈瘤の治療法は、従来人工血管を用いた置換手術がその中心でした。しかし手術によって体が受ける負担は大きく、高齢者や併存疾患を持つハイリスク症例への対応には限界がありました。この負担を軽減する目的で、約20年前に“ステントグラフト”という人工血管にバネ状の金属を取り付けた新型の人工血管による動脈瘤治療が始まりました。現在では大動脈瘤に対する治療として世界的に定着し、その適応は急速に拡大しています。鹿児島大学病院心臓血管外科では1999年よりステントグラフト治療を開始しました。本邦では長い間、欧米で使用され実績のある機材を使うことができませんでしたが、2006年7月から使用できるようになりました。優れたステントグラフトの使用が可能となったおかげで、手術は太腿の付け根に数cmの皮膚切開を置くだけで、胸部や腹部に大きな切開を加えることなく治療が行えます。このように体に大きな負担のかからない治療なので、術後の回復が早く入院期間も短くなり、手術前の活動性(生活のレベル)が保たれやすいといった利点があります。胸部ならびに腹部大動脈瘤の検査、治療方法およびステントグラフト治療に関するご質問がございましたら、心臓血管外科までご連絡ください。

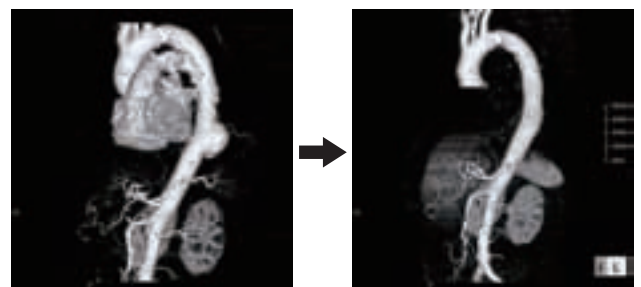
<初診受付>火・木(8:30~11:00)

TEL 099-275-5815

心臓血管外科



腹部大動脈瘤のステントグラフト治療



胸部大動脈瘤のステントグラフト治療

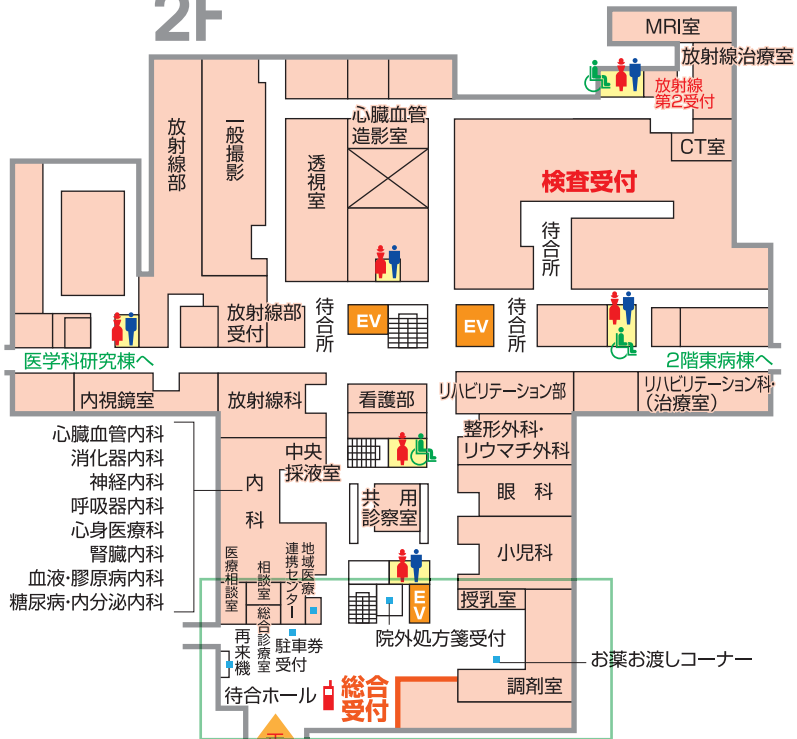
医科外来ご案内図

1F



- 携帯電話を使用できるエリア
- エレベーター
- 階段
- トイレ

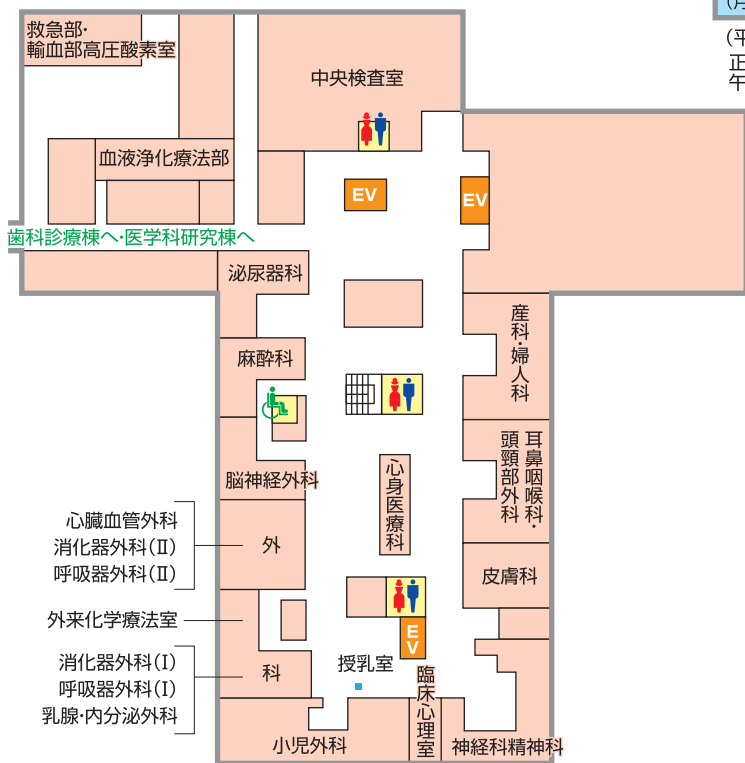
2F



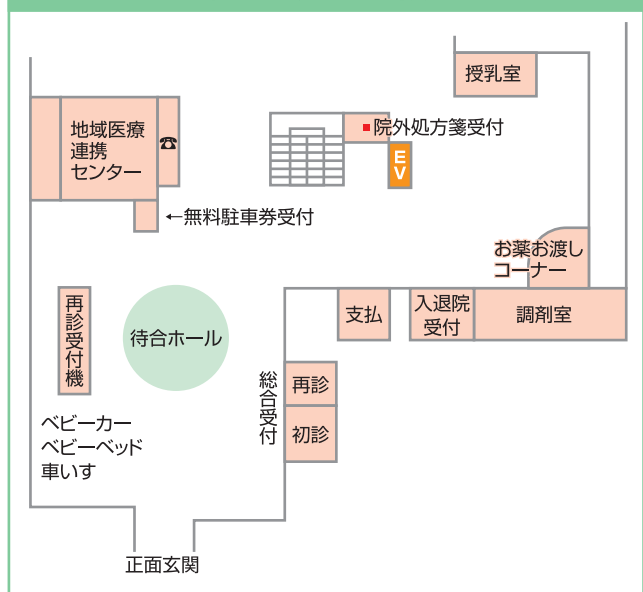
タクシー待合 (月～金) 祝祭日は除く
(平日午後6時まで)
正面玄関は午前6時から午後6時まで(土・日・祝祭日は除く)

身障者用駐車場

3F



2F総合受付付近拡大図

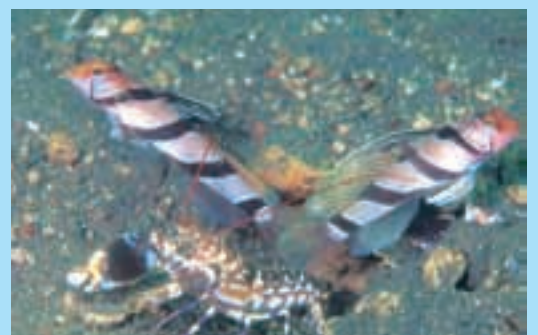


ハゼとエビの共同生活

秋の気配が濃くなり、穏やかな日差しが揺れる砂底。眼を凝らすと、あちこちに小さなハゼの幼魚たちが、巣穴から顔を覗かせています。さらによく見ると、彼らの巣穴で、せわしなく動く小さな生き物が見つかります。ハゼと共生する、テッポウエビです。

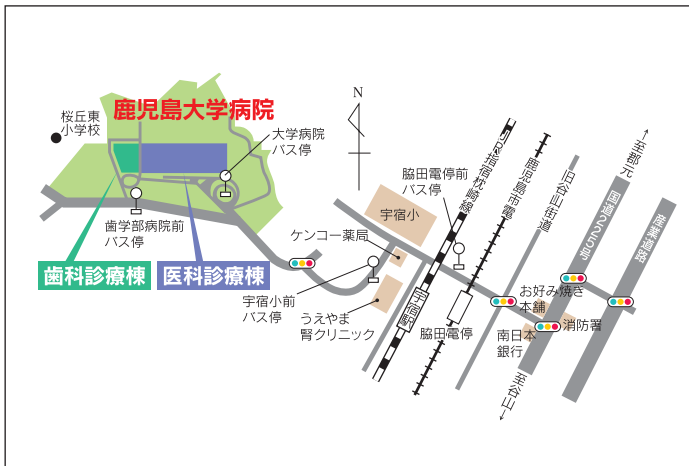
ハゼの仲間には、テッポウエビと共生するものがたくさんいます。小さな生き物である彼らは、常に外敵から捕食される危険にさらされています。その危険を回避するために、彼らの共同生活は始まりました。エビは、一日中、隠れ場所となる穴を掘ります。すぐに崩れてしまう砂地の穴は、メンテナンスの手を休める暇もありません。ハゼにも立派な役割があります。目の見えないエビに代わって、外敵の接近を見張っているのです。巣穴の入り口に陣取ったハゼは、周囲に目を光らせます。そして、大きな魚などの外敵が近づくと、尾鰭を震わせて、エビに知らせるのです。作業中のエビは、常に触角でハゼの体に触れています。そして、ハゼからの信号を受け取ると、一瞬にして穴の奥に身を隠すのです。俊敏なハゼは、さらに危険が迫ると、パートナーが掘ってくれた穴に飛び込みます。

砂地に無数に散らばるハゼの幼魚たち。彼らの傍らで穴を掘る、幼いエビたち。彼らは、この後、互いに助け合いながら、共に成長してゆくのです。ハゼとエビ、この生物学的には遠くはなれた彼らの、代々受け継がれてきた親密な共同生活が、いま始まったのです。



共生する、ネジリンボウのペアとニシキテッポウエビ。

交通案内



JR JR指宿枕崎線 「宇宿駅」下車

- 市営シャトルバス(130円)
脇田電停前バス停 または
宇宿小前バス停 乗車
↓
大学病院前バス停 または
歯学部病院前バス停 下車
- タクシー約3分
- 徒歩約15分

バス 鹿児島中央駅から

- 市営バス18番線(220円) または
鹿児島交通バス
17番,18番,19番線(250円)
乗車
↓
大学病院前バス停 または
歯学部病院前バス停 下車
- タクシー約30分

市電 市電谷山方面(1系統) 「脇田電停」下車(160円)

- 市営シャトルバス(130円)
脇田電停前バス停 または
宇宿小前バス停 乗車
↓
大学病院前バス停 または
歯学部病院前バス停 下車
- タクシー約3分
- 徒歩約15分

フェリー 大隅方面 鴨池フェリー 鴨池港

- 鹿児島交通バス(180円)
鴨池港バス停 乗車
↓
大学病院前バス停 または
歯学部病院前バス停 下車
- タクシー約15分



病院敷地内 禁煙にご協力を

本院では、病院施設及び敷地内禁煙を実施しています。
皆様のご協力とご理解をお願いいたします。

広報誌編集部会からのお知らせ

鹿児島大学病院の診療内容、病気についての一
般知識など知りたいことがありましたら、お知らせ
ください。
また、「桜ヶ丘だより」への皆様方からのご意見・
ご感想をお待ちしております。

鹿児島大学病院広報誌 桜ヶ丘だより(15号)

2009(平成21)年10月発行

発行/鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部会

〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号 TEL 099-275-6692

【鹿児島大学病院ホームページアドレス】

<http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/>